

保健医療サービス

在南アフリカ日本国大使館

医療サービスを受けることが困難な人々に対し、南アフリカ NGO、日本企業のフジフィルム及び在南アフリカ日本国大使館が協力し、2014年にクワズルナタール州及び東ケープ州を対象にした乳がんの啓蒙活動、乳がん予防法やセルフチェック法の保健教育、専門家によるカウンセリング活動に巡回検診車両1台、また2018年リンポポ州の主に鉱山地域の人々に対し、結核検診巡回車両を1台供与しました。

日本も含めて、世界中で乳がんの早期発見の努力、そのための啓蒙活動が行われていますが、このフジフィルムのマンモグラフィー機を搭載した巡回検診車両は、南アフリカの保健医療サービスが行き届いていない KZN 州及び東ケープ州の乳がんの啓蒙活動、乳がん予防法やセルフチェック法の保健教育、専門家によるカウンセリングを提供し、「PINKDRIVE」とよばれ、ヴィヴィットなピンクの車両が、毎月約 300 名の低所得者層の女性の検診を行い、健康維持に貢献しています。

また、南アフリカは鉱物資源の一大輸出国で、日本もプラチナ、クロム、マンガンといった多くの鉱物を同国から輸入しています。精密機器から身の周りの日用品まで様々なものに活かされており、これらの鉱物は南アフリカのリンポポ州などで多く採掘されていますが、リンポポ州の鉱山労働者の 30 人に 1 人の割合で結核が発症（南アフリカ国内平均に比べ約 3 倍）しています。供与したフジフィルムの医療機器を搭載した結核検診巡回車はリンポポ州の鉱山で働く人々、月間約 700 名の健康維持に寄与しています。

